

早稲田大学 理工学部 物理 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	理科 120 分
特徴・その他	グラフを作成する問題が 1 問出題された。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔 〕	荷電粒子の磁界内での運動、電気回路（質量分析器）	標準レベルの頻出問題。問 7 以後もそれまでの問の結果を用いれば、それほど難しくはない。	標準
〔 〕	固定台および可動台上の小球の円運動と台を離れた後の放物運動	前半は基本的な問題。後半は問 7 の出来いかんで差がつくであろう。	標準
〔 〕	並列接続された 2 つのコンデンサーの電気容量の変化とそれに伴うエネルギーと電荷の変化	<p>～ の各状態と各状態変化を正確に理解できれば、それほど難しい問題ではない。</p> <p>ただ、問 6 の「コンデンサー A になされた仕事」が「コンデンサー A、B 全体の静電エネルギーの変化量（A の両極板間の引力に抗して外力がした仕事）」を意味するのか、あるいは「コンデンサー A の静電エネルギーの変化量（A がなされた正味の仕事）」を意味するのかがはっきりせず、どちらともとれる問題文になっている。</p>	標準
〔 〕	光の屈折と全反射、反射型回折格子	前半は基本的な問題であるが、後半とくに問 7 以後は物理的な思考力をためす良問であるが、ここで差がつくと思われる。	標準

〔総合コメント〕

各大問とも基本的な問からやや程度の高い問まで含んでいるが、難問と思われる問はない。ただ、本学は私学最難関校のひとつであるから、標準問題にとどまらず、はじめて見るような問題にも対応できる実力を養っておく必要がある。

また、全体としては問題量がかなり多いので、正確で迅速な計算力も必要となる。